

上 の 兄 篤 雄 が 後 を 継 い だ 。 一 方 、 母 の さ く は	し た そ う だ 。 篤 蔵 は 比 較 的 若 く 逝 去 し 、 六 歳	支 店 長 に 抜 擢 さ れ 、 小 川 絹 の 買 継 商 で 財 を な	す る 柿 原 商 店 に 職 を 得 た 。 そ の 後 、 小 川 町 の	鉄 道 へ 上 武 鉄 道 へ を 創 設 し た 柿 原 万 蔵 の 経 営	た 。 篤 蔵 は 小 鹿 野 町 出 身 。 繭 で 財 を な し 秩 父	埼 玉 県 小 川 町 の 濱 田 篤 蔵 ・ さ く の 間 に 生 ま れ	は る の 生 い 立 ち は る は 、 明 治 三 四 年 三 月 、		る 人 は 少 な い か も し れ な い 。	い か 、 は る が 俳 句 を よ す が に し て い た 事 を 知	て い る 掲 句 を 愛 吟 す る 人 は 多 い 。 こ の 句 の せ	与 太 と 呼 び な が ら も 母 の 大 ら か な 愛 が 滲 み 出	夏 の 山 国 母 い て 我 を 与 太 と い う 兜 太	母 堂 金 子 は る さ ん も 俳 句 を 詠 ま れ て い た 事 を		皆 さ ん は ご 存 知 だ ろ う か 。 金 子 兜 太 師 の 御								石 橋 い ろ り	一 秩 父 山 峡 に 生 き る 兜 太 の 母 一	俳 人 金 子 は る を 訪 ね て
--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	-----------------------	--	--

が	梯	紅	秩		一	当	を	秩	の	伊	境	く	い	熊	地	ッ	て	兄	小
さ	を	の	父		人	時	社	父	縁	昔	に	に	。	谷	元	、	篤	川	
れ	残	医	に		連	の	寺	に	が	紅	あ	叩	嫁	の	の	柿	雄	町	
て	し	院	嫁		れ	は	に	嫁	結	と	っ	き	ぐ	女	尋	原	は	の	
い	て	「	い		て	る	寄	い	ば	意	た	込	ま	学	常	商	、	穀	
る	お	壺	で		の	の	付	で	れ	気	よ	ま	で	校	小	店	東	物	
。	り	春	壺		嫁	実	し	き	、	投	う	れ	は	に	学	の	京	商	
主	、	堂	春		入	家	た	た	は	合	だ	た	、	学	校	事	の	中	
屋	皆	」	堂		り	は	こ	。	る	。	。	い	家	ん	卒	の	中	村	
は	野	は	の		だ	富	と	は	十	こ	兄	う	で	だ	業	傍	学	孫	
幕	町	、	句		っ	裕	が	六	六	う	篤	。	花	ら	後	ら	を	七	
末	初	今	会		た	な	記	歳	の	し	が	高	嫁	し	、	小	卒	の	
か	の	も			そ	家	録	の	婚	て	い	い	修	い	多	川	業	四	
ら	国	皆	兜		う	で	に	儀	儀	、	教	教	業	が	分	町	後	人	
明	の	野	太		だ	、	残	で	、	は	育	育	し	、	寄	の	、	の	
治	文	町	の		。	女	っ	余	山	る	水	学	学	定	宿	議	銀	子	
に	化	に	父			中	た	っ	を	と	準	問	か	舎	員	行	員	の	
か	財	当	伊			さ	資	た	越	伊	の	も	で	を	に	を	一		
け	登	時	昔			ん	金	資	え	昔	環	母	は	持	は	を	人		
て	録	の				を	程	金	て	紅	で	さ	な	つ	、	ト	経	で	

れ	族		利	南	六	と	に		理	な	堂	見	う	っ	の	し	の	家	建
た	。	祖	用	側	部	薬	改	昭	が	厨	の	据	だ	て	和	て	が	。	て
。		父	し	を	屋	局	築	和	運	と	現	え	。	い	舟	造	、	皆	ら
伊	熾	母	、	客	の	、	さ	元	ば	、	在	て	親	た	が	り	野	れ	、
昔	烈	、	他	間	う	奥	れ	年	れ	母	の	、	鼻	。	親	か	を	、	屋
紅	な	三	の	へ	ち	を	た	に	た	屋	入	宿	橋	現	鼻	え	流	、	根
の	因	人	四	獅	待	台	。	は	そ	と	り	と	開	在	の	ら	れ	る	裏
学	習	の	部	子	合	所	現	、	う	の	口	し	通	の	渡	た	荒	で	養
資	の	小	屋	の	室	と	在	伊	だ	し	か	て	に	橋	し	川	養	蚕	を
を	中	姑	が	間	隣	し	の	昔	。	が	ら	造	よ	より	と	。	に	を	し
稼	、	と	生	一	を	、	土	紅		架	入	り	り	少	し	そ	親	し	て
ぐ	小	三	活	と	診	裏	間	に		け	っ	か	往	し	の	鼻	を	し	て
た	姑	人	空	し	察	口	手	よ		ら	た	え	来	、	折	橋	が	い	た
め	や	の	間	て	室	を	前	っ		れ	庭	た	増	往	に	が	架	大	き
に	姑	連	だ	句	と	設	半	て		、	の	い	え	来	壺	架	け	な	農
働	に	れ	っ	会	し	け	分	住		二	部	う	る	の	春	け	ら	な	農
き	い	子	た	場	、	て	に	居		階	分	。	こ	手	堂	ら	な	農	農
に	じ	の	。	と	奥	い	待	兼		に	に	壺	と	段	は	れ	な	農	農
出	め	大		し	座	た	合	医		簡	簡	春	を	と	な	た	な	農	農
て	ら	家		て	敷	。	室	院		単	単	春	を	そ	な	た	な	農	農

天	自	若	養		な	た	と	よ	切	る	的	深	こ	太		い	況	と	く
井	身	衆	蚕	秩	い	兜	し	う	の	。	且	い	の	句	塀	た	で	も	れ
の	の	が	や	父	。	太	た	に	情	兜	つ	闇	「	集	白	、	でき	て	
煤	述	集	畑	の		の	の	な	が	太	連	を	塀	」		実	な	い	
け	懐	ま	仕	俳		反	も	っ	募	は	続	際	白		家	か	た		
た	に	っ	事	壇		骨	、	た	り	母	性	立	く		も	っ	小		
我	あ	て	を	を		の	秩	と	、	の	が	た	」		没	た	姑		
が	る	き	し	牽		精	父	言	封	姿	果	せ	の		落	よ	だ		
家	。	て	い	引		神	の	う	建	を	て	お	白		し	う	っ		
の		い	る	し		が	暮	。	的	間	お	り	の		、	孤	だ		
広		た	知	て		礎	ら	大	家	近	、	「	残		立	。	は		
間		。	的	き		に	し	学	族	で	苦	塀	像		無	は	に		
に		句	好	た		あ	を	で	制	見	境	」	が		援	る	伊		
次		会	奇	伊		っ	救	の	度	続	を	の	、		で	は	昔		
々		の	心	昔		た	いた	専	に	け	暗	持	一		只	、	紅		
に		様	に	紅		の	い	攻	異	、	示	つ	層		管	き	は		
男		子	飢	の		か	、	を	論	母	し	遮	こ		耐	つ	庇		
た		は	え	元		も	と	経	を	へ	て	蔽	の		え	い	う		
ち		兜	た	に		し	し	済	抱	の	い		の		抜	状	こ		
		太		は		れ		学	く	哀									

が	集	ま	っ	て	き	ま	し	た	。	そ	の	内	の	一	人	が	各	入
が	選	ん	だ	句	を	読	み	上	げ	ま	す	。	楽	し	そ	う	な	大
声	に	は	時	に	冗	談	も	ま	じ	り	、	そ	の	つ	ど	部	屋	中
に	笑	い	が	ま	き	起	こ	り	ま	す	。	こ	ん	な	零	困	気	さ
え	そ	れ	ま	で	の	句	会	で	は	あ	り	え	な	か	っ	た	事	で
し	た	。	へ	『	二	度	生	き	る	』	へ							
そ	の	う	ち	に	酒	が	入	る	と	、	全	然	違	う	こ	と	で	取
っ	組	み	合	い	に	な	っ	て	、	障	子	は	破	る	わ	、		襖
は	破	る	わ	、	毎	回	め	ち	ゃ	く	ち	ゃ	に	し	て		帰	る
ん	で	・	・	へ	金	子	兜	太	・	半	藤	一	利		『	今	、	
日	本	人	に	知	っ	て	も	ら	い	た	い	こ	と	』	へ			
句	会	終	わ	り	に	必	ず	酒	と	饅	飴	を	出	し	た	。	粉	を
ね	て	、	二	十	人	近	い	人	の	饅	飴	を	出	す	の	は	、	重
働	だ	っ	た	だ	ろ	う	。											
麵	棒	抱	え	て	嫁	ぎ	し	母	の	長	寿	か	な			兜	太	
へ	『	百	年	』	へ													
こ	の	『	二	度	生	き	る	』	の	引	用	に	は	、	刮	目	す	べ
記	述	が	続	く	。													
小	学	生	だ	っ	た	私	は	横	に	い	て	そ	れ	を	聞	い	て	い
ま	す	。	他	に	も	、	母	や	出	戻	り	の	叔	母	た	ち	、	近

掲	登		新							句	句	四	味	願	の	と	よ	金		
載	山	昭	聞			千	秋	入	昭	を	雑	年	の	っ	道	が	う	子	ま	所
さ	神	和	に			鹿	主	る	和	始	記	春	種	た	に	わ	に	家	っ	の
れ	社	三	掲			谷	人	。	四	め	」	か	は	の	わ	か	習	に	て	お
た	の	九	載			鋼	病		十	る	と	ら	育	だ	か	る	わ	い	き	ば
。	神	年	さ			泉	気		四	覚	題	、	く	。	こ	。	ぬ	て	て	さん
	域	秩	れ			か	全		年	悟	し	は	ま	し	と	兜	経	、	、	ん
た	に	父	た			ら	快		春	と	た	る	れ	か	を	太	の	は	並	た
ら	伊	新	は			本			よ	取	手	は	て	し	戒	に	如	る	ん	ち
ち	昔	聞	る			格			り	れ	帳	俳	い	め	は	、	く	は	で	ま
ね	紅	の	の			的			少	る	が	句	た	医	人	俳	俳	、	聞	で
の	の	一	句			に			し	言	三	を	の	院	に	句	句	太	い	が
母	碑	月				は			ず	葉	冊	始	中	を	非	に	に	が	て	半
が	建	二				じ			つ	が	あ	め	で	継	ず	親	そ	そ	い	分
こ	立	十				め			俳	あ	り	て	俳	い	と	し	う	う	ま	暇
ら	の	五				る			句	っ	、	い	句	で	書	ん	で	あ	し	つ
ふ	記	日							の	た	そ	た	は	ほ	く	で	い	っ	た	ぶ
る	事	号							勉	。	こ	。	四	し	俳	た	あ	っ	。	し
児	が	に							強		に	「	十	い	人	こ	た			に
の		宝							に		俳	俳	四	の	人	こ	た			集

月	誌	こ					『						『	記	碑	聞	の	五	種
25	上	の	酔	は	七	長	埼	を	病	を	伊	ま	秩	念	五	六	有	月	痘
日	初	両	木	る	彩	旅	玉	祝	を	撮	昔	た	父	句	周	月	名	二	
号	出	句	”	夫	会	に	民	し	病	影	紅	一	新	会	年	五	人	十	伊
一	の	“	の	入	の	よ	報	た	ん	し	翁	つ	聞	に	句	日	も	四	昔
に	句	は	会	や	会	ご	四	。	だ	た	の	京	四	初	会	号	含	日	紅
掲	と	も	員	、	員	れ	五	翁	と	八	講	の	五	め	に	に	め	の	
載	な	の	等	毎	が	し	年	八	は	ミ	評	土	年	て	は	あ	一	除	
さ	っ	味	も	月	呼	足	六	十	思	り	が	産	六	は	な	っ	三	幕	
れ	た	”	参	先	び	袋	月	一	え	に	あ	や	月	る	か	た	〇	式	
た	。	と	加	生	か	や	二	歳	ぬ	よ	り	は	十	の	っ	。	人	に	
の	翌	“	・	宅	け	白	十	。	ほ	っ	、	も	五	句	た	は	が	は	
が	年	長	・	で	、	あ	日		ど	て	そ	の	日	が	の	参	石	塚	
、	、	旅		開	特	や	号		元	し	の	味	号	掲	だ	加	塚	友	
	秩	に		い	に	め	』		気	の	あ		』	載	が	し	二	二	
	父	“		て	今				な	び	と	金		さ	、	た	秩	ら	
	新	が		い	年	金			翁	、	と	子		れ	六	伊	父	俳	
	聞	は		る	は	子			の	昨	秩	は		た	周	昔	新	句	
	一	る		“	愛	は			健	年	父	る		。	年	紅		界	
	6	の		馬	妻	る			康	大	新			の	の	句			

は	『		は	に	か											れ	は			ま	
何	鶴		る	刻	ら	こ	山	賜	豊							て	る	柿	め	た	温
故	』		の	み	日	の	茶	謁	明							い	の	投	日	、	泉
な	へ		中	た	常	頃	花	の	殿							た	手	げ	号	伊	土
の	の		で	い	を	か	や	朝	(230							。	帳	て	に	昔	産
か	投		芽	も	詠	ら	並	し	坪								に	二	は	紅	の
。	句		生	の	う	俳	ぶ	ま	)								は	階	、	先	綜
伊	の		え	を	楽	句	受	る									叙	の	生	生	を
昔	経		て	形	し	は	賞	鼻									勲	患	叙	叙	夫
紅	緯		い	と	い	喧	者	緒									の	者	勲	勲	と
は			っ	し	物	嘩	寫	や									日	手	記	念	朝
「	「		た	て	と	で	絵	さ									の	に	念	句	餉
馬	鶴		よ	留	し	終	に	さ									こ	う	句	会	に
酔	」		う	め	て	わ		さ									と	け	会	で	す
木	に		だ	る	、	る		さ									と	る	の	の	
」	投		。	手	ま	苦		鳴									が		同	誌	
、	句			段	た	々		け									詳		誌	⇒	
兜	し			と	た	し		る									細		⇒	月	
太	た			し	の	い		る									に				
・	の			て		物											記				
千																	さ				



門	ま	八	こ	へ	思	『		も	う	壺	石	原	合	ち	ど	「	俵	を	侍
下	っ	年	れ	石	い	鶴		並	に	春	塚	秋	っ	日	人	馬	に	創	は
の	た	春	は	塚	き	』		べ	、	堂	友	櫻	て	々	間	醉	上	刊	「
七	時	、	、	友	や	主		て	壺	に	二	子	い	の	探	木	り	し	寒
人	の	浅	壺	二	ま	宰		貼	春	も	一	を	た	生	求	」	た	て	雷
の	挨	賀	春	句	か	の		ら	堂	出	当	通	の	活	的	ほ	く	い	。
侍	拶	爽	堂	集	り	石		れ	の	入	時	し	か	を	で	ど	な	た	昭
の	句	吉	の	一	て	塚		て	襖	り	主	て	も	題	な	美	か	の	和
一	。	の	の	夜	一	友		い	に	が	宰	、	し	材	い	的	っ	だ	三
人	浅	出	友	雑	夜	二		る	は	あ	一	石	れ	に	。	で	た	が	七
で	賀	征	二	の	雑	と		。	三	り	と	田	な	す	両	は	の	。	年
あ	爽	送	の	間	の	の			人	、	知	波	い	る	方	な	は	多	は
り	吉	別	短			関			の	そ	遇	郷	。	「	の	く	は	分	兜
、	と	会	冊			係			直	れ	を	一	伊	鶴	要	、	な	家	太
「	は	に	で			性			筆	を	得	元	昔	」	素	「	い	族	が
鶴	、	壺	、		友				の	裏	て	鶴	紅	が	を	寒	だ	と	「
」	伊	春	昭		二				短	付	い	主	が	合	合	雷	ろ	同	海
秩	昔	堂	和						冊	け	た	宰	友	わ	せ	」	う	じ	程
父	紅	に	一						が	る	。	一	人	持	持	ほ	か	土	」
支	の	泊							今	よ		、	水	は					

部	の	会	黒	事	が	な	の	「	派	夜	ま	行	れ	集	友	二	一
の	母	の	沢	。余	潮	色	時	調	な	を	た	〜	て	『	二	切	
会	体	母	宗	談	夜	紙	の	度	難	明	「	に	い	秩	が	も	
員	で	体	三	だ	荒	等	こ	品	壇	か	石	は	た	父	縷	友	
で	、	で	郎	が	で	が	の	が	が	し	塚	、	。	ば	の	二	
も	、	、	・	、	、	二	時	志	飾	た	友			や	友	一	
あ	、	、	村	皆	伊	階	、	那	ら	」	二			し	二	二	
る	、	、	田	野	昔	の	秩	色	れ	と	句			』	と	切	
。	、	、	柿	駅	紅	広	父	一	月	述	集			の	の	受	
。	、	、	公	前	の	間	は	色	後	懐	」			跋	の	け	
。	、	、	・	の	信	に	『	の	れ	し	へ			文	関	て	
。	、	、	渡	鰻	頼	展	秩	座	の	て	「			「	係	下	
。	、	、	辺	の	篤	示	父	敷	難	い	壺			壺	性	さ	
。	、	、	浮	吉	く	して	ば	に	祭	た	春			堂	は	つ	
。	、	、	美	見	、	あ	や	、	り	。	翁			堂	、	た	
。	、	、	竹	屋	多	る	し	床	だ		と			翁	伊	こ	
。	、	、	・	の	の	。	』	し	っ		私			と	昔	と	
。	、	、	紅	先	貴	〜	の	く	た		」			紅	紅	更	
。	、	、	梓	代	重		跋	も	。		」			は	紅	に	
。	、	、	の				文	立	こ		で			は	最	暢	

入	録	な	し	く	鶴	「			に	の		彷彿	昔	こ	も	第		と		
」	さ	る	た	投	」	鶴			選	人	斯	彿	紅	と	友	二	ま	謝		
が	れ	。投	と	句	に	」			ん	と	う	す	・	が	二	た	辞			を
付	て	句	す	し		へ			だ	な	し	る	金	わ	が	そ	れ	を		加
記	お	は	れ	た	四	の			の	り	て	と	子	か	書	『	述		え	意
さ	り	全	ば	。掲	六	投			だ	を	、	描	元	る	い	秩	べ	得	た	の
れ	、	て	、	載	年	句			。	は	夫	写	春	そ	て	父	て	こ	跋	
て	掲	、	九	句	三	と				る	の	し	は	の	お	音	と	文	を	
い	載	は	百	以	月	特				も	絶	て	山	序	り	頭	と	を	以	
た	句	る	句	外	か	選				十	对	い	本	文	、	』	を	深	て	
。	に	の	程	に	ら	句				分	的	た	周	で	の	の	く	感	、	
	は	ノ	作	毎	十					知	信	。	五	、	序	序	謝	末	に	
	き	ト	句	月	五	は				っ	頼		郎	友	文	文	い	千	鈞	
	ち	に	し	五	年	は				た	を		の	二	「	に	た	の	重	
	ん	克	て	句	間	、				上	得		赤	は	縁	に	し	ま	す	
	と	明	いた	づ	殆	俳				で	て		ひ	、	に	因	ま	す	」	
	入	に	こ	つ	ど	句				友	い		げ	医	み	て				
	選	記	と	投	欠	誌				二	る		先	師	て					
	の			句	稿	「				師	友		生	伊	」					
	「				な								を							み

親父が死んだ後、母親は投句中心に始めた	んだけど、巻頭句つまり優秀作だな、これ	にはなかった。へ今、日本入	に知ってもraithたいこと)	兜太のこの述懐はいささか事実と異なる。俳	句を始めたのは、伊昔紅没年の五二年ではな	く四四年春から。四六年三月の「鶴」三	号が初掲載なので、投句は四五年十二月には	済ませている。また、「鶴」の巻頭句	『特選句』に選ばれている。	白木蓮や牛小舎飼屋抽ん出てはる(47年7	月号)	主宰の友二の特選句の句評も掲載していた。	牛小舎は兎も角、飼屋といへば、多く	二階建ての高い家屋のやうである。その	牛小舎を控えた飼いを抽ん出た木蓮だ	から、大木ぶりも自ら想像出来ようと	ふものである。また従ってその花の豊か	さをも。そして、中天に枝を拡げてその	豊かに咲き誇る木蓮の花の、紫でなく白
---------------------	---------------------	---------------	-----------------	----------------------	----------------------	--------------------	----------------------	-------------------	---------------	----------------------	-----	----------------------	-------------------	--------------------	-------------------	-------------------	--------------------	--------------------	--------------------

は	兜				き	還	侍	り	の	カ	医			っ	伊					
る	太	朝	(49	元	た	曆	が	、	だ	リ	師	(48	豆	た	昔					
は	が	日	年	日	よ	を	金	三	ろ	ス	で	年	を	。	紅					
、	妻	煙	6	の	う	迎	子	七	う	マ	、	5	撒		と					
元	皆	る	月	生	だ	え	医	年	。	的	秩	号	く		は					
日	子	手	号	み	。	る	院	、	小	な	父	)	共		る					
に	に	中	)	た		頃	を	兜	姑	伊	音		に		の					
生	大	の		て		に	継	太	達	昔	頭		丑		関					
み	事	蚕		玉		な	ぎ	は	が	紅	や		年		係					
た	そ	妻		子		と	病	「	出	に	秩		老							
て	う	に		夫		、	院	海	て	尊	父		夫							
玉	に	示		の		生	を	程	い	敬	文		は							
子	蚕	す		掌		活	開	」	き	の	壇		一							
を	を			に		は	業	を	、	念	を		回							
夫	見	兜				落	し	創	子	を	牽		り							
の	せ	太				ち	た	刊	育	抱	引		上							
掌	た	へ		は		着	。	。	て	い	し		の							
に	よ	少		る		い		翌	も	て	て		丑							
渡	う	年				て		年	終	い	い		年							
し	に	)						千	わ	た	た		だ							

る		ヤ		価	帳	エ		と			が	掲			か	を	滋	う	て
が	兜	マ		、	に	ッ		の	へ	落	わ	句	(54	元	っ	寒	養	。	い
、	太	ブ		◎	も	ク		相	秩	の	か	か	年	朝	た	中	豊	一	る
そ	の	味		、	ノ	を		聞	父	臺	。そ	、	々	に	の	と	か	年	。
も	句	噌		○	丨	受		歌	音	掌	。そ	元	月	生	か	言	と	で	玉
そ	碑	蔵		△	ト	け		で	頭	に	う	日	号	れ	も	う	い	最	子
も	が	句		△	に	た		は	へ	の	考	が	へ	来	し	の	う	も	の
は	秩	会		な	も	こ		と		せ	え	伊		て	れ	で	。	寒	ぬ
伊	父			ど	、	と		紐		妻	る	昔		夫	な	「	正	い	く
昔	に			が	そ	も		解		の	と	紅		や	い	寒	確	季	も
紅	集			付	の	あ		き		誕	、	の		米	。	卵	に	節	り
の	中			記	痕	る		た		生		誕		寿		」	は	の	ご
句	し			さ	跡	よ		く		日		生		た		を	小	寒	と
碑	て			れ	が	う		な				日		り		季	寒	中	手
が	建			て	あ	で		る				だ				語	か	の	渡
先	立			い	り	、		。		伊		っ				に	ら	玉	し
に	さ			た	、	そ				昔		た				立	立	子	た
建	れ			。	夫	れ				紅		こ				春	ま	は	の
立	て				の	は						と				ま	で	特	だ
さ	い				評	手										で	な	に	ら

平	と	バ	噌	毎	（	師	開	そ	（	味	の	な	通	父	頭	工	ヤ	の	れ
の	盛	ー	蔵	年	吟	の	始	の	秩	噌	句	り	言	の	家	会	マ	新	て
遺	会	は	句	、	醜	句	。	後	父	搗	碑	、	語	活	元	長	ブ	井	いた
集	だ	、	会	味	）	碑		武	ば	や	を	昭	に	性	の	な	味	武	た
『	っ	伊	と	噌		を	後	平	や	負	建	和	し	化	碑	ど	噌	平	。
吟	た	昔	名	搗		神	日	は	やし	は	立	三	て	・	建	の	は	だ	そ
醜	。	紅	打	句		と	、	、	）	れ	す	年	、	秩	立	要	県	っ	の
』	味	を	っ	碑		し	武	伊		て	る	味	伊	父	の	職	下	た	立
の	噌	主	て	記		念	平	昔		踏	こ	噌	昔	音	発	に	に	。	役
金	蔵	座	四	念		じ	は	紅		み	と	工	紅	頭	起	つ	販	秩	者
子	句	に	回	句		味	次	の		し	な	場	と	の	人	い	売	父	が
千	会	、	お	会		噌	の	門		日	っ	の	武	普	代	て	網	の	ヤ
侍	の	千	こ	が		造	句	下		の	た	敷	平	及	表	いた	を	味	マ
の	詳	侍	な	持		る	を	と		記	。	地	は	と	も	た	広	噌	ブ
序	細	、	わ	た			詠	な		憶		内	昵	い	し	初	げ	醬	味
文	は	七	れ	れ			ん	り				に	懇	う	代	が	て	油	噌
か	、	彩	た	、		武	で	、		伊		伊	の	大	いた	秩	いた	製	の
ら	新	会	。	以		平	い	句		昔		昔	間	志	父	。	。	造	創
う	井	な	メ	後			る	作		紅		紅	柄	を	音	商	。	業	業
	武	ど	ン	味			。	を					と	共	秩	商	の	者	者

妻	夫	・	年	四	生	こ				の	五	す	よ	初					か
む	の	接	句	回	憎	の	3	3	2	が	日	る	う	回	第	第	第	第	が
め	妻	待	会	ま	、	数				残	の	こ	に	か	四	三	二	一	い
に	和	は	は	で	伊	字	不	板	抱	っ	第	と	毎	ら	回	回	回	回	知
離	子	二	続	で	昔	は	如	前	卵	て	二	が	回	第	・	・	・	・	る
れ	が	代	いた	、	紅	得	帰	が	の	いた	回	叶	参	四	・	・	・	・	こ
の	一	目	。会	の	が	点	御	空	燕	。そ	の	わ	加	回	・	・	・	・	と
茶	切	郁	場	後	体	な	客	樽	さ	の	噌	な	し	ま	昭	昭	昭	昭	が
室	取	夫	は	は	調	の	も	洗	さ	の	搗	か	て	で	和	和	和	和	で
に	り	の	は	千	を	か	覗	ふ	や	う	句	っ	いた	は	四	四	四	四	き
招	仕	弟	ヤ	侍	崩	も	く	黴	き	ち	碑	た	た	る	九	八	七	六	た
か	切	隆	マ	に	した	し	橋	る	交	の	会	が	そ	も	年	年	年	年	。
れ	り	治	ブ	引	た	れ	普	前	替	三	に	、	う	伊	十	十	六	七	
話	、	の	で	き	こ	い	請		す	句	五	手	だ	昔	月	月	月	月	
を	は	妻	、	継	と	。				。	句	帳	。	紅	十	一	二	四	
す	は	伊	そ	が	で						出	に	句	に	三	月	月	日	
る	武	都	の	れ	、		は	は	は		し	六	稿	寄	日	二	二	日	
の	平	子	準	、	会		る	る	る		た	月	は	り	日	三	日		
を	の	と	備	長	は						も	二	入	添					
楽		郁										十	手	う					



お	の		産	ム	形	だ	た	蔵							さ	る	こ		月	し
お	り	皆	土	ペ	無	二	。	句	伊	薫	金	薫	葦		れ	こ	の	病	に	ん
か	ー	野	の	ー	形	代	初	会	昔	風	子	風	山		る	と	句	み	詠	で
み	フ	町	会	ジ	の	目	代	を	紅	や	伊	や	山		。	か	を	き	ん	い
を	レ	観	ー	に	尽	郁	の	継	逝	米	昔	師	頂			ら	短	り	だ	た
竜	ッ	光	に	兜	力	夫	み	続	去	寿	紅	の	に			も	冊	て		そ
神	ト	協	リ	太	を	氏	な	し	後	迎	先	歌	伊			、	に	静		う
と	で	会	ン	句	得	、	ら	、	も	へ	生	碑	昔			佳	し	か		だ
呼	句	の	ク	碑	て	現	ず	兜	、	し		の	紅			き	て	に		。
ぶ	碑	「	が	壺	い	在	秩	太	変	師		今	先			親	、	逝		む
山	が	金	張	春	る	社	父	の	わ	や		日	生		交	あ	き	ぬ		め
の	紹	子	ら	堂	。	長	へ	記	ら	悠		除	の		が	も	合			逝
民	介	兜	れ	記	現	の	の	念	ず	、		幕	秩		あ	壺	歡			去
	さ	太	て	念	在	藤	思	碑	千				父		っ	春	の			の
（	れ	句	い	館	も	治	い	を	侍	武		武	音		た	堂	花			昭
壺	て	碑	る	（	ヤ	氏	を	多	を	平		平	頭		こ	に				和
春	い	巡	。	兜	マ	よ	引	数	師	（		（	歌		と	掲				四
堂	る	り		太	ブ	り	き	建	に	咳		咳	碑		が	げ				五
）	。	の		・	ホ	の	継	立	味	醜		醜	建		推	て				年
		旅			ー	有	い	し	噌	）		）	つ		察	あ				七

万	は	切	「	せ	詞		は	舞	ぎ	谷	猪	日	曼	よ	僧	お	山	夏	裏
博	秩	れ	秩	て	と	伊	る	う	ら	間	が	の	珠	く	と	お	峡	の	口
八	父	な	父	い	振	昔	と	ご	ぎ	谷	来	夕	沙	眠	い	か	に	山	に
月	音	い	音	っ	り	紅	秩	と	ら	間	て	ベ	華	る	て	み	沢	国	線
九	頭	も	頭	た	付	は	父	し	の	に	空	天	ど	夢	柿	に	蟹	母	路
く	の	の	」	。	け	金	音	萩	朝	満	気	空	れ	の	の	蚩	の	い	が
十	様	に	は	そ	と	子	頭	の	日	作	を	を	も	枯	実	が	華	て	見
一	々	な	生	の	を	社		寺	子	が	食	去	腹	野	と	一	微	我	え
日	な	っ	活	渦	練	中		い	照	咲	べ	る	出	が	白	つ	か	を	る
く	イ	て	の	中	り	の		ま	ら	く	る	一	し	青	鳥	付	な	与	蚕
に	ベン	いた	一	に	上	頭		夕	す	荒	春	狐	秩	の	話	い	り	太	飼
参	ト	た	端	いた	げ	と		暮	自	凡	の	な	父			て		と	か
加	エ	思	あ	は	、	し		れ	然	夫	峠	一	の			いた		い	な
し	ウ	う	り	る	日	て		て	か	一	一	天	子			た		う	
て	た	。	、	に	本	一		洞	な	宝	長	空	一			一		一	皆
い	祭	金	切	と	中	秩		昌	一	登	生	の	水			一		円	野
た	、	子	っ	っ	に	父		院	総	山	館	里	潜			一		明	一
。	大	社	て	て	伝	音		一	持	神	一	寺	一			一		寺	一
	阪	中	も	も	播	頭		一	寺	社	一	一	一			一		一	一
					さ	の		一	一	一									
					歌	歌													

調	こ	れ	こ	花	霞	万	一	碑	皆	○	『	実	音	玉	演	神	昭	念	○
べ	の	て	の	の	む	本	目	に	野	秩	踊	技	頭	県	。	事	和	式	明
を	地	い	副	山	美	咲	千	は	町	父	神	と	」	の	舞	五	典	治	
加	方	た	碑		の	い	本	秩	美	音	』	し	と	代	の	一	〜	神	
え	の	。	に		山	て		父	の	頭	〜	て	改	表	の	つ	で	宮	
、	古		は					音	山	の		教	名	民	十	と	の	遷	
歌	い		伊					頭	（	の		え	さ	謡	一	し	お	座	
舞	盆		昔					の	）	建		ら	れ	と	て	て	披	十	
伎	歌		紅					歌	に	立		れ	、	秩	父	昭	露	周	
の	を		の					詞	建			た	県	父	年	和	目	年	
流	編		文					が	立			（	下	豊	と	二		（	
れ	曲		の					刻	さ			）	小	年	し	五		紀	
を	し		并					ま	れ			金	学	、	て	年		元	
汲	て		書					れ	た			子	校	、	秩	、		二	
む	、		に					た	こ			千	の	以	父	豊		千	
と	勁		由					。	の			侍	体	後	と	年		六	
い	節		来						歌			の	育	「	し	踊		百	
わ	の		が									の	の	秩	て	り		年	
			書									の	の	父	出	が		の	
			か									の	の	父	埼	た		記	



わ	う	医	お	ハ	秩	え	ー	う	校	の	皆	○	万	鯛	二		雑	の	万
る	す	者	ら	ー	父	ら	ト	だ	で	普	野	秩	博	や	日	記	だ	博	
い	の	で	が	ア	音	れ	に	。は	も	及	町	父	の	万	帰	」	が	に	
事	め	は	隣	エ	頭	て	は	る	力	を	で	頭	出	博	宅	に	、	は	
に	も	く	り	ー	と	い	「	の	を	入	は	の	長	す	は	、	心	は	
は	切	ら	じ		思	る	句	昭	れ	れ	、	替	し		共		は	る	
エ	る	く	ゃ		え	もの	碑	和	作	古	古	え	百	と	に		共	自	
サ	小	で	よ		る	が	十	念	詞	く	か	歌	日	あ	あ		に	身	
シ	石	大	い		歌	あり	周	年	す	から	ら	を	紅	っ	っ		あ	は	
が	も	工	む		詞	、	年	々	る	町	を	公		た	た		っ	参	
す	か	で	こ		が	は	月	日	よ	を	募	募		。	は		た	加	
き	け	左	賞		見	る	日	の	う	し	し	し			ず		は	せ	
で	る	官	った		つ	オ	日	覚	指	て	て	は			。		は	ず	
					か	リ	の	え	導	い	秩	は					る	の	
					っ	ジ	覚	書	し	た	父	る					の	「	
					た	ナ	え	き	て	。	音	る					俳	だ	
					。	ル	書	ノ	い	学	頭						句	っ	
						の	き		た									た	た

○	ら	間	し	か	っ	は	に	は	建	か	に	侍	大	節						
秩	れ	の	て	と	た	な	し	る	設	も	顔	の	工	を	ト	う	腰	く	農	
父	る	温	い	も	と	ん	て	に	し	し	つ	『	で	つ	ロ	ら	に	く	の	
音	。	か	る	思	考	で	い	と	た	れ	く	寒	左	け	ン	の	モ	り	五	
頭		い	と	え	え	も	た	っ	昭	な		雷	官	て	コ	小	チ	づ	月	
の		心	解	る	る	家	と	て	和	い		』	の	み	ト	山	つ	き	も	
歌		の	釈	。	と	の	い	も	四	う		初	フ	る	ッ	へ	ぼ	ん	そ	
手		通	す	伊	、	修	こ	、	五	こ	千	掲	レ	と	キ	ち	手	に	の	
吉		い	れ	昔	伊	繕	と	大	年	も	侍	載	丨	、	ン	よ	に	か	六	
岡		あ	ば	紅	昔	は	も	工	当	あ	へ	の	ズ	な	ト	っ	竿	み	月	
儀		い	、	を	紅	自	あ	・	時	る	絹	句	は	る	ン	く	さ	こ	も	
作		が	諧	お	の	前	る	左	の	だ	の	、	、	ほ		ら	し	の		
へ		あ	諺	ど	一	で	だ	官	句	ろ	峠	大	憶	ど	ヒ	ち		着		
の		っ	性	け	面	こ	う	が	と	う	ー	工	測	秩	丨	よ		物		
追		た	が	た	を	な	。	日	い	。	に	左	で	父	ヒ	っ				
悼		こ	あ	よ	表	し	た	常	う	た	感	官	あ	音	ヤ	と				
句		と	り	う	現	時	だ	の	。	だ	化	焚	る	頭	ロ	の				
も		が	、	に	し	代	昔	中	た	さ	さ	火	の	の	ト	ぼ				
残		感	夫	描	た	だ	で	で	だ	れ	れ	の	、	よ	キ	る				
し		じ	婦	写	の	だ	目	、	昔	た	た	煙	千	う	丨					

一人居の玻璃戸に寄れば夜の蟬	(53年 2月号)	石 落 咲 け ど 夫 の 座 空 し 香 捧 ぐ	(昭和 五 二 年 伊 昔 紅 没 後)	夫 の 日 日 悠 悠 自 適 石 落 咲 か す	(52年 5月号)	な や ら ひ の 声 張 る 夫 の 腰 さ さ る	(50年 2月号)	濡 縁 に 夫 が 爪 剪 る 菊 日 和	(49年 6月号)	春 愁 や 杖 に 馴 染 ま ぬ 夫 に 踪 き	○ 想 夫 恋 の 句	に あ っ た 。 そ れ ら と 交 歓 し た 句 が 。	は る の 句	歳 時 記 に 馴 染 の の 鳥 や 植 物 が 身 近	で 聴 け る か と 。	コ ロ ン ビ ア レ コ ー ド に 音 源 が あ り	は る	て い る 。 5 年 の 月 号 に は 、
は る		は る		は る		は る		は る		は る						ユ ー ブ	は る	

(55)	亡	○壺	(88)	魃	心	京	伊	○旅	て	く	か	苦	(89)	鱚	(57)	後	(54)	法	(53)
年	き	春	年	の	遣	都	昔	旅	い	、	。	難	年	雲	年	れ	年	筵	年
2	夫	堂	6	風	い	、	紅	に	。	伊	理	の	夫	夫	咲	一	は	亡	々
月	が	庭	月	か	が	倉	と	出	句	昔	由	中	の	の	く	月	夫	夫	月
号	形	先	号	ほ	見	敷	は	て	の	紅	は	、	。	墓	芍	号	の	夫	号
)	見	の	)	る	え	、	近	詠	中	が	実	は	。	ま	薬	)	好	の	)
	榎	榎		琵	。	伊	場	ん	に	と	家	な	。	で	は	み	。	好	
	榎			琶		勢	の	だ	そ	て	が	ぜ			し	し	。	。	
	榎			湖		路	鉾	句	れ	も	没	実			鮎	料			
	榎			の		な	泉		が	優	落	家			理				
	榎			橋		ど	・		読	し	し	に							
	榎			渡		も	温		み	か	た	戻							
	榎			る		巡	泉		取	っ	か	ら							
	榎					っ	や		れ	た	ら	だ							
	榎					た	琵		る	か	け	け							
	榎					。	琶		。	ら	で	っ							
	榎					伊	湖			と	は	た							
	榎					昔	、			伝	は	の							
	榎					紅	奈			わ	な								
	榎					の	良			っ									







面々（はる・兜太・皆子・千侍・律子・洸三	余の作品が収められた。その中には金子家の	時彦などの玉稿と伊昔紅の薫陶を受けた百人	悌二郎、及川貞、牧ひでを、加藤楸邨、草間	親交のあった水原秋櫻子、石塚友二、篠田	となり、七人の侍の手を借りて作成された。	真入りで掲載されている。千侍が編集委員長	記事は朝日新聞同年九月二一日号に千侍の写	集が上梓された。因みにこの『玉泉』の出版	の布張りの表紙に『玉泉』と刻印された遺句	伊昔紅亡きあと昭和五六年九月に、紺桔梗	伊昔紅遺句集『玉泉』	(59年9月号)	裏山に鳴くは狐か梅雨の果	(54年9月号)	梅雨満月思はず落す蔵の鍵	(49年9月号)	夫の腰迂闊に起てず梅雨炬燵	はる	はる	はる	しれない。
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	------------	----------	--------------	----------	--------------	----------	---------------	----	----	----	-------

	晩	一									杜						葉	せ	で	き	一
籠	年	句		掌	蟻	元	蔵	杜	艶	老	杜						謹	て	は		の
り	の	入		に	螂	朝	閉	鴟	拭	人	鴟					んで	い	は	、	の	
ゐ	は	魂		受	が	に	め	夫	き	の	は				弟	た	添	生	跋	句	
て	る	の		け	夫	生	て	は	の	また	日				子	た	え	き	文	作	
け	は	ノ		て	の	れ	立	課	手	重	課				た	ち	ら	る	に	も	
さ	、	ト		重	位	て	待	の	先	ね	小				の	の	れ	義	は	収	
気	出			き	牌	夫	月	太	の	着	刀				作	捧	て	務	兜	め	
づ	不			包	の	や	と	握	ぬ	や	握				品	げ	い	が	太	ら	
き	精			や	辺	米	顔	り	く	戻	梅				集	ま	た	「	が	れ	
け	を			寒	にあ	寿	合		み	り	雨				『	す	は	と	「	て	
る	決			卵	そ	たり	す		笹	梅	泉				玉		千	い	親	い	
花	め				ぶ				鳴	雨	」				泉		侍	う	た	る	
榎	込								ける		よ				』		ら	こ	る	も	
榎	んで										り				を		編	と	の	友	
	いた														伊		集	な	八	二	
は	た														昔		委	ど	十	が	
る	。														紅		員	」	五	序	
																	の	を	歳	文	
																	言	寄	ま	を	
																				書	書

母	百		否	身	息	が	俳	と	こ						統	の	い	B	居	
逝	四		、	近	子	胸	句	共	の	っ	嫌	ま	百	一	数	た	5	間		
き	歳		純	に	た	奥	を	に	ノ	て	い	し	二	し	十	。美	の	に		
て	で		粹	置	ち	に	生	あ	丨	も	だ	た	歳	て	冊	文	ノ	い		
与	は		に	く	が	あ	涯	っ	ト	ら	っ	の	ま	認	に	字	丨	て		
太	る		俳	事	生	っ	捨	た	の	い	た	私	で	め	及	で	ト	庭		
な	は		句	で	涯	た	て	と	存	た	お	の	俳	た	ぶ	一	に	の		
倅	他		が	満	手	の	ない	確	在	い	ふ	小	句	「	ノ	句	隙	樹		
の	界		好	た	放	か	覚	信	に	こ	く	さ	を	写	丨	一	間	々		
鼻			き	さ	さ	も	悟	し	よ	と	ろ	い	ず	経	ト	句	なく	を		
光			だ	れ	な	し	」	た	り	〜	で	と	っ	」	を	清	自	見		
る			っ	た	か	れ	と	。こ	、		す	と	と	で	手	書	分	な		
			た	の	っ	な	言	の	は		へ	ノ	ノ	は	に	し	の	が		
兜			か	か	た	い	い	こ	る		今	丨	ト	な	、	句	ら	、		
太			ら	も	俳	。或	切	と	の		、	に	書	い	こ	を	句	細		
			な	し	句	い	っ	は	余		日	書	い	だ	れ	清	を	い		
一			の	れ	を	は	た	夫	生		本	い	ろ	う	は	書	あ	罫		
日			だ	ない	自	は	思	が	が		入	て	う	か	精	。あ	線			
常			ろ	い	分	夫	い	「	俳		に	い	か	。あ	神	て	の			
一			う	。	も	と		」	句		知		。							

